

研究計画書

ゼミ名	柘植ゼミⅡ	チーム名	T チーム
タイトル	COVID-19 特別定額給付金におけるナッジ理論の応用		
テーマ群	g) その他		
メンバー			
研究計画内容	<p>「研究背景」新型コロナウイルスによる経済活動の抑制や雇用不安によって、消費が大幅に減少し、GDP も減少した。政府は、簡素な仕組みで迅速かつ的確に家計への支援を行うことを目的として 10 万円の特別定額給付金の配布を決定した。GDP を増加させるためには民間消費支出の増加が必要不可欠であるため、消費を増加させる必要がある。では、どうすれば、家計は特別定額給付金を消費に回すのであろうか。私たちは、与える情報によって、家計の特別定額給付金の使途に影響を与え、自発的な消費を誘導できるかを検証する。</p> <p>「研究内容と期待される成果」与える情報が異なる 3 つのアンケート調査を実施し、消費に使われる金額に違いが生じるかを検証する。与える情報は、フレーミング効果を参考に決定した。フレーミング効果とは、同じ内容の情報であっても、ポジティブな表現かネガティブな表現かといったように、表現方法を変化させることで、異なる意思決定が導かれる現象のことである。アンケート 1 では、何も情報を与えない。アンケート 2 では、給付金を過度に貯蓄した場合、コロナウイルスによる所得の低下や雇用の減少を回復することが困難になるというネガティブな表現の情報を与える。アンケート 3 では、給付金を消費に使用することで、企業・家計ともに経済的に豊かになるといったポジティブな表現の情報を与える。これら 3 つのアンケートで給付金の使途を比較し、消費額に差が出るかを検証することで、新型コロナウイルスに関する特別定額給付金のケースにおいて、ナッジ理論が成立するかを明らかにする。</p>		